

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



今年はずっと暖冬で、雪が少ないのは雪国の人にとっては喜ばしいことです。でも、スギ花粉も早くから飛び、花粉症の方には春になるのが嬉しくもあり、嬉しくもない。

そして、夏の気温はいつだってどうなるのか？ 水不足にならないか？ 心配のタネは尽きません。



日本の政治はいつだってどうなっているのでしょうか。腐敗した与党の政治家がゴロゴロ。

韓国の統一教会と強い繋がりを持っていることが問題になっていました。さらに、裏金を集め、もしかしたら私的に使っていたのではないかと疑われる状況。

このまま与党に政治を任せていて良いのか、心配です。日本という国は、とてもおかしな

方向に進んでいるように思えます。株価は過去最高だとマスコミは伝えています。人々の生活は向上しているのでしょうか？ 貧富の格差がさらに広がっています。

出生数は激減。昨年は赤ちゃんが約75万人生まれましたが、つい数年前は百万人台でした。産むことができないという前に、収入が少なくて、結婚できないうえに、若い人たちが多いのがこの本質です。

それを何とかしない限り、出生数は増えないし、日本を支える次の世代は先細りになります。

2面で給食のことを考えましたが、義務教育は無償なのに、給食費などの金銭的負担は少なくありません。給食費を無料にするだけでも、保護者には喜ばれることではないでしょうか。(隣の妙高市はそれを実行！)

感染症情報

インフルエンザが2月にまた大きな流行になりました。A型インフルエンザが昨年9月から流行が始まり、数年ぶりの大きな流行になりました。1月に一旦下火に向かいましたが、2月上旬にB型インフルエンザに置き換わり、今シーズン2回目の大きな流行になりました。コロナ禍の4年間で流行していなかったために、ひとたび流行が始まると、大規模な流行になってしまいました。もうしばらく注意をお願いします。

新型コロナウイルス感染症も2月に大きな流行になりました。第10波のようです。半年に1回は大きな流行を繰り返していますが、新しい変異株の出現が関係しているようです。感染予防の対応が引き続き必要です。

溶連菌感染症が多く発生しています。咽頭痛と発熱が主な症状です。抗菌薬による治療が必要です。

また、同様症状のアデノウイルス性咽頭炎の発生もあります。こちらは特効薬はなく、対症療法です。高熱が数日続き、1週間ほどは登園・登校停止になります。

感染性胃腸炎の発生も少なくありません。多くは、急に吐いたり下痢をしたりするウイルス性胃腸炎です。子どもたちの集団内で発生し、その後家族内での発生になることが多いです。時に、食事を介しての集団発生（つまり食中毒）もあります。注意してください。

今月の予定

臨時休診のご案内

3月2日(土)は都合により臨時休診です。前週に続いての土曜休診になります。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

院長・副院長出務

ファミリーサポート研修会講師 13日
上越有線放送「健康ライフ」19日
FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)
医院ホームページ内

☆スギ花粉の飛散が例年より早く始まっています。スギ花粉症の方は早めの対処を。内服を開始し、点眼、点鼻などを適宜使いましょう。

安全で豊かなものに

学校での給食をめぐる、時々大きなトラブルが起きています。身近でも大きな事案が発生しました。

●アナフィラキシー

ある小学校で、食物アレルギーがあり制限されているはずなのにアナフィラキシーを発症。その後の対応にもまずさがあり、入院する事態になってしまいました。

この子については主治医から食物制限の指示があり、給食では除去されたいたはずなのに。献立を立てる栄養士が、仕入れ食材の成分表を確認せず、調理員も見落としていたという二重のミスが重なりました。

また、この子が腹痛を訴え、この時点でアレルギーの対応をしなければいけなかったのに、一人でトイレへ行かせてしまいました。その後、戻って来ないので声かけをしたけれど、本人の様子を直接見ることはせず。その後教室に戻ってから、持参していたエビペンを使用したという

経過のようです。

食物アレルギーによりアナフィラキシーという命に関わる状態に陥ってしまったわけですが、対応には大いに反省すべき点がいくつもあります。

●窒息事故

最近、福岡県でも大きな事件がありました。小学1年生がうずらの卵を喉に詰まらせ、窒息死したというものです。

丸くてつるつとした物は、喉に詰まらせることがあり、小さな子にとっては危険です。保育園の給食ではうずらの卵は提供しないことになっていくようです。他にはミニトマト、白滝などもそうです。

小学1年という、まだ幼児とあまり変わりません。乳歯から永久歯に生え替わる時期で、前歯がない子が多いです。うずらの卵を自分で噛み切ることができず、そのままツルツと飲み込んでしまうことは十分に考えられます。

アレルギーとは違って、食材そのものが悪いわけではありません。そ

の形状が問題です。切れ目を入れて、潰れやすくしておく。あるいは半分に切っておく。それだけで、窒息事故が起きることはなくなるでしょう。小学生といっても1年生と6年生では大違い。給食の内容や提供の仕方、年齢や身体能力に合わせて工夫することが必要です。

さらにその場での救命処置が果たして十分だったのか、やや疑問があります。やるべきことをしっかりと実行できたとは言えないようです。

食べ物の窒息事故は色々な場面で経験します。基本は背中の中を強く叩く（背面叩打法）か、腹部を強く胸部に向かって押し上げる（腹部突き上げ法、ハイムリック法）です。これによって喉に詰まった異物が口から出てくることが期待されます（餅のように喉の壁にくっつく物は無理かも）。

うまく取り除くことができないと、すぐに心肺停止になります。心臓マッサージである胸部圧迫を直ちに開始すること。これが胸腔の内圧を高めるので、ハイムリック法と同じ効果が得られるかもしれません。

同時に救急要請を行い、救急隊が来るまで胸部圧迫を続けてください。

こういった手順（マニュアル）が学校にはあると思いますが、いざという場面では慌ててしまい、何もできないでいることがあるかも。そうならないよう、日頃から救急対応の方法を練習しておく必要があります。

事故が起きるのは学校だけではなく、家庭内や、職場、出かけた先などでも。一般の人たちにもぜひ習熟していて欲しいと思います。

●豊かな給食を

給食の取り方も見直しが必要です。決まった短い時間で、決まった量を食べさせる・子どもに無理をさせていませんか？ その子に合わせた給食であって欲しいです。

それにしても学校の先生は大変です。事故にならないよう対応するためには、学校の先生こそ勤務に余裕が必要です。そのためには1学級の生徒数を少なくすること！豊かな教育環境を整備しましょう。